



Sun Fire™ X4500 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-1144-10
2007年4月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright 2006-2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より 米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品のの一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2006-2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

重要な注意事項 1

Windows とLinux の OS のインストールについての追加ドキュメント 1

サーバーをラックに取り付ける際の重要な注意事項 2

ホットプラグ対応の SATA ディスクにより読み取りキャッシュが無効になり、
処理能力が低下する (CR 6428449) 2

ハードウェアの注意事項 7

推奨ラック 7

ハードドライブ (HDD) の交換 8

システムコントローラの取り外し 8

新しいシステムコントローラの固定方法 8

システムコントローラの取り付け 8

HDD0 や HDD1 の取り外し 8

ファントレイのカバーを 60 秒以上開けない 9

HDD アクセスカバーを長時間開けておかない (特に HDD スロットに空きがある
場合) 9

ファントレイの LED (CR 6469493、6456577) 10

LED の場所 10

背面のスロットを持ってサーバーを持ち上げない 11

PCI カードのケーブルの接続・切断 11

ホコリによるシステム冷却効果への影響 12

ソフトウェアの注意事項 13

ソフトウェアの一般的な注意事項 14

ツールとドライバ、およびブート可能な診断用 CD 14

ブート順序の変更 (CR 6497367) 15

SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると JavaRConsole がクラッシュする (CR 6507785) 15

SunVTS のブート可能な診断用 CD の .iso イメージ (Version 2.1f) から表示されるメッセージ 15

RAID ボリュームのドライブの容量 16

PowerNow! を使用している OS 用に設定する 16

Solaris OS の PowerNow! 16

ブート可能な診断用 CD の SunVTS 6.2 の GUI に表示される「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (CR 6465167) 17

ハードディスクの取り付けや取り外しを行うと Marvell の警告メッセージが表示される 17

Solaris の注意事項 17

fdisk の "IFS:NTFS, OtherOS, None" に Format -M を実行すると、モードセンスページ 0x3 でエラーが発生する (CR 6393815) 17

iostat -E から SATA ドライブに多くのソフトエラーが発生したことが報告される (CR 6427672, 6397613) 18

ブート中に「Bad PBR Sig」というメッセージが表示される 18

Solaris 9 SPARC クライアントでは CD-ROM や USB フロッピーディスクデバイスにリダイレクトできない (CR 6415385) 18

Solaris OS の再インストール方法 19

SATA の `cfgadm` コマンドを実行しても、SATA のすべての接続点が表示されない場合がある (CR 6386934) 19

ノードに `IOCTL` をダイレクトできなかった場合は、`cfgadm_sata` を実行しても SATA の接続ノードが表示されない (CR 6397654) 20

Solaris Volume Manager を使用すると動作が遅くなる (CR 6419666) 20

ZFS データの同期化を行うとシステムの動作が遅くなる (CR 6430480) 20

Linux の注意事項 20

Kudzu/Anaconda ですべての SCSI デバイスが認識されない
(CR 6487566) 20

SMART ディスクの監視デーモンで RHEL4 U4 64 ビット版を起動できない
(CR 6389704) 21

SUSE 10.0 クライアントに USB で接続した CD-ROM は javaRconsole によっ
て正しく認識されない (CR 6415456) 22

Windows の注意事項 23

ホスト OS 上の IPMI を使って HDD を監視・制御できない (CR 6434272) 23

Windows のインストール中にブートディスクが認識されないことがある
(CR 6486425) 23

BIOS の注意事項 25

BIOS の POST の実行中に最適なデフォルト設定をロードする 25

サーブスプロセッサの注意事項 27

新しいイメージをフラッシュすると WebGUI にログオンできなくなる
(CR 6513809) 28

ECC のエラーメッセージが SEL に記録されないことがある 28

SP の IP アドレスを WebGUI から変更すると WebGUI が応答しなくなることが
ある (CR 6496327) 29

ILOM から電圧のわずかな変動が報告される (CR 6506412) 29

SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると
JavaRConsole がクラッシュする
(CR 6507785) 30

サーマルシャットダウン後にシステムをブートするとブート中にシャットダウン
する (CR 6494327) 30

構成から解除したディスクが引き続き SP または IPMItool に表示される
(CR 6512915) 30

ILOM のフラッシュアップデートの新しいレイアウト 31

SP では 115200 ボーがサポートされていない (CR 6499189) 31

サーマルシャットダウンが発生しても CPU のエラーイベントが SP のシステムイ
ベントログ (SEL) に記録されない (CR 6499953) 32

SP で SNMP トラップを使用できない (CR 6396525)	32
ゲートウェイのネットワーク IP アドレスが間違っているとリダイレクトができない (CR 6494290)	32
CLI と WebGUI に TOP_SVC、REAR_SVC、/SYS/FT4 のエントリがない (CR 6502713)	33
シャーシコントロールのサブコマンド 0x4 (パルス診断の中断) がサポートされていない (CR 6404875)	33
リモートコンソールセッションを起動すると Java コンソールにエラーメッセージが表示される (CR 6441908)	33
help targets コマンドを実行しても /sys の下のすべてのオブジェクトが表示されない	34
ドキュメントの注意事項	35
Sun Fire X4500 Server Guide for Preinstalled Solaris 10 Operating System (Solaris 10 OS プリインストール済みの Sun Fire X4500 サーバーガイド)	35
Sun Fire X4500 Server Diagnostics Guide (Sun Fire X4500 サーバー診断マニュアル)	36
ツールとドライバの CD が付属していない	36
Sun Fire X4500 Server Service Manual (Sun Fire X4500 サーバーサービスマニュアル)	36
250G バイト および 750G バイトのディスクドライブがサポートされていない	36

重要な注意事項

ここでは、Sun Fire™ X4500 サーバーに関する重要な注意事項を説明します。必ずこの章を読んでからサーバーを取り扱ってください。

- 「Windows と Linux の OS のインストールについての追加ドキュメント」 (1 ページ)
- 「サーバーをラックに取り付ける際の重要な注意事項」 (2 ページ)
- 「ホットプラグ対応の SATA ディスクにより読み取りキャッシュが無効になり、処理能力が低下する (CR 6428449)」 (2 ページ)

注 – 特定のプラットフォームが明記されていない問題は、すべてのプラットフォームに該当します。

Windows と Linux の OS のインストールについての追加ドキュメント

サーバーに Windows または Linux をインストールする前に、『Sun Fire X4500 サーバーの Windows および Linux オペレーティングシステムに関する補足ドキュメント』(820-1164)をお読みください。このドキュメントは、システムボックスに付属しています。または、次の URL でオンライン版を参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4500/index.html

サーバーをラックに取り付ける際の重要な注意事項

サーバーをラックに取り付ける際の重要な注意事項については、新しいドキュメントである『Sun Fire X4500 Server Critical Installation Update (Sun Fire X4500 サーバーの設置に関する重要なアップデート)』(820-0043)に記載されています。このドキュメントは、レールキット (別売) に付属しているほか、オンラインでも閲覧できます。

URL は次のとおりです。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4500/index.html

ホットプラグ対応の SATA ディスクにより読み取りキャッシュが無効になり、処理能力が低下する (CR 6428449)

ホットプラグ対応モデルの SATA ディスクによりキャッシュが無効になり、読み取りデータの処理能力が低下することがあります。

この問題を防ぐには、ディスクを取り外す前に `cfgadm` コマンドを実行してディスクを無効にし、ディスクを取り付け直した後で同じコマンドでもう一度有効にしてください。

読み取りキャッシュが無効になると、手動で有効にする必要があります。

Linux や Windows のシステムでは、キャッシュへの読み込みはデフォルトで無効になっています。Solaris のシステムでは、ZFS が実装されているかどうかにかかわらず、読み取りキャッシュが OS により有効になります。

ZFS が実装されていない Solaris™ で読み取りキャッシュを有効にするには、`format -e` コマンドを実行します。-e により、SCSI エキスパートメニューが有効になります。これをドライブごとに行ってください。

`format` コマンドは、ファイルシステムがマウントされているハードディスクを除き、コマンドファイルを使って実行できます。ファイルシステムがマウントされているハードディスクドライブは、安全のために手動で実行する必要があります。詳細は、`format` コマンドのマニュアルページを参照してください。

1. root としてログインし、次のコマンドを入力します。

```
# format -e
```

使用できるディスクの一覧が表示されます。このリストの番号でディスクを指定します。

```
Searching for disks...done (ディスクの検索 ... 完了)
```

```
AVAILABLE DISK SELECTIONS (使用できるディスク一覧) :
```

```
0. c0t0d0 <HITACHI-HDS7225SBSUN250G-V440-232.88GB>
   /pci@0,0/pci1022,7458@1/pci11ab,11ab@1/disk@0,0
1. c0t1d0 <DEFAULT cyl 30398 alt 2 hd 255 sec 63>
   /pci@0,0/pci1022,7458@1/pci11ab,11ab@1/disk@1,0
2. c0t2d0 <DEFAULT cyl 30398 alt 2 hd 255 sec 63>
   /pci@0,0/pci1022,7458@1/pci11ab,11ab@1/disk@2,0
```

```
.
. (以下省略)
```

2. プロンプトが表示されたら、ディスク番号を指定します。

```
Specify disk (enter its number) (ディスクを指定 - ディスク番号を入力) :
```

```
0 (例)
```

次のような情報が表示されます。

```
selecting c0t0d0 (c0t0d0 の選択)
```

```
[disk formatted] ([フォーマット済みディスク])
```

```
/dev/dsk/c0t0d0s0 is part of active ZFS pool zfs_r1. Please see zpool
(1M) . (/dev/dsk/c0t0d0s0 は、アクティブな ZFS プール zfs_r1 の一部です。
zpool (1M) を参照してください)
```

```
FORMAT MENU (フォーマットメニュー) :
```

```
disk          - select a disk (ディスクを選択)
type          - select (define) a disk type
               (ディスクタイプを選択または定義)
partition     - select (define) a partition table
               (パーティションテーブルを選択または定義)
current       - describe the current disk (現在のディスクを定義)
format        - format and analyze the disk
               (ディスクをフォーマットして分析)
fdisk         - run the fdisk program (fdisk プログラムを実行)
repair        - repair a defective sector (欠陥のあるセクターを修復)
label         - write label to the disk (ディスクにラベルを書き込む)
analyze       - surface analysis (表面解析)
defect        - defect list management (欠陥領域リスト管理)
```

```

backup      - search for backup labels (バックアップラベルの検索)
verify     - read and display labels (ラベルの読み取りと表示)
inquiry    - show vendor, product and revision
            (製造元、製品、バージョンの表示)
scsi       - independent SCSI mode selects (各 SCSI モードで選択)
cache      - enable, disable or query SCSI disk cache
            (SCSI ディスクキャッシュの有効化、無効化、クエリー)
volname    - set 8-character volume name
            (8 文字のボリューム名の設定)
!<cmd>    - execute <cmd>, then return
            (<cmd> を実行してから戻る)

quit (終了)

```

3. format メニューで「cache」と入力します。

```
format> cache
```

次の情報が表示されます。

CACHE MENU (キャッシュメニュー) :

```

write_cache - display or modify write cache settings
            (書き込みキャッシュ設定の表示または変更)
read_cache  - display or modify read cache settings
            (読み込みキャッシュ設定の表示または変更)
!<cmd>    - execute <cmd>, then return
            (<cmd> を実行してから戻る)

quit (終了)

```

4. cache メニューで「read_cache」と入力します。

```
cache> read_cache
```

次の情報が表示されます。

READ_CACHE MENU (読み込みキャッシュメニュー) :

```

display     - display current setting of read cache
            (読み込みキャッシュの現在の設定を表示)
enable     - enable read cache (読み込みキャッシュの有効化)
disable    - disable read cache (読み込みキャッシュの無効化)
!<cmd>    - execute <cmd>, then return
            (<cmd> を実行してから戻る)

quit (終了)

```

5. ドライブの現在の状態を表示するには、`read_cache` メニューで「`display`」と入力します。

```
read_cache> display
```

次の情報が表示されます。

```
Read Cache is disabled (読み込みキャッシュは無効です)
```

6. `read_cache` メニューで「`enable`」と入力します。

```
read_cache> enable
```

この設定は、次回リセットすると上書きされ、恒久的には保存されません。

7. ドライブの現在の状態を表示するには、「`display`」と入力します。

```
read_cache> display
```

次の情報が表示されます。

```
Read Cache is enabled (読み込みキャッシュは有効です)
```

8. `read_cache` メニューを終了するには、「`quit`」と入力します。

9. `cache` メニューを終了するには、「`quit`」と入力します。

10. 別のディスクのキャッシュを有効にするには、「`disk`」と入力します。

```
format> disk
```

11. 必要に応じてディスクごとに上記の[ステップ 2](#)～[ステップ 10](#)を繰り返します。

12. `format`> メニューで「`quit`」と入力します。

ハードウェアの注意事項

ここでは、次のような、Sun Fire X4500 サーバーに関連するハードウェアの注意事項を説明します。

- 「推奨ラック」 (7 ページ)
- 「ハードドライブ (HDD) の交換」 (8 ページ)
- 「システムコントローラの取り外し」 (8 ページ)
- 「新しいシステムコントローラの固定方法」 (8 ページ)
- 「システムコントローラの取り付け」 (8 ページ)
- 「HDD0 や HDD1 の取り外し」 (8 ページ)
- 「ファントレイのカバーを 60 秒以上開けない」 (9 ページ)
- 「HDD アクセスカバーを長時間開けておかない (特に HDD スロットに空きがある場合)」 (9 ページ)
- 「ファントレイの LED (CR 6469493、6456577)」 (10 ページ)
- 「LED の場所」 (10 ページ)
- 「背面のスロットを持ってサーバーを持ち上げない」 (11 ページ)
- 「PCI カードのケーブルの接続・切断」 (11 ページ)
- 「ホコリによるシステム冷却効果への影響」 (12 ページ)

推奨ラック

Sun Fire X4500 サーバーは奥行きが深いいため、1000 mm サイズのラックが適しています。このサイズの Sun Rack 1000-42 と Sun Rack 1000-38 をお勧めします。

Sun 製のラック製品については、次の Web ページをご覧ください。

<http://www.sun.com/servers/rack/index.html>

ハードドライブ (HDD) の交換

ハードドライブを交換取り付けするときは、ハードドライブのモジュールをしっかり押し込み、正しい位置に固定したことを確認してください。

システムコントローラの取り外し

システムコントローラを取り外すには、ボールペンなど先の尖ったもので取り出し用ハンドルのリリースボタンを押してください。

新しいシステムコントローラの固定方法

新しいシステムのコントローラ取り出し用ハンドルにはリリースボタンがなく、代わりにネジで固定されています。コントローラを取り外すときはこの固定ネジを緩めて、取り付けるときはネジを締めてください。

システムコントローラの取り付け

システムコントローラを取り付けるときは、奥までしっかり押し込みます。抵抗を感じたら、さらに押しして固定させます。その後、システムコントローラのハンドルを持ち上げます。カチッという音がしたら所定の位置に固定されます。

HDD0 や HDD1 の取り外し

HDD0 や HDD1 に入っているドライブは、システムブート可能なドライブです。システムが正しくシャットダウンするまでは、これらのドライブを取り外さないでください。

注 – この注意事項は、Windows オペレーティングシステムには該当しません。

ドライブの状態は、それぞれのディスクドライブに付いている LED の色でわかります。

エラーが発生したドライブはソフトウェアが検知して、黄色の LED が点灯します。

- ブート可能でないドライブでエラーが発生した場合は、ドライブを構成から解除します。青の LED が点灯したら、ドライブを取り外すことができます。
- ブート可能なドライブでエラーが発生した場合は、黄色の LED が点灯し、青の LED は点灯しません。

ブート可能なドライブを交換するには、次の手順を実行します。

- ブート元のドライブを取り外すには、システムをシャットダウンします。
たとえば、HDD0 からブートしているときに、その HDD0 の黄色の LED が点灯した場合は、システムをシャットダウンしなければなりません。
- ブート元でないブート可能ドライブを取り外すには、`cfgadm` コマンドを実行してディスクを構成から解除します。青の LED が点灯したら、そのドライブを交換します。
たとえば、HDD0 からブートしているときに、HDD1 の黄色の LED が点灯した場合は、まず `cfgadm` コマンドを実行して HDD1 を構成から解除し、青の LED が点灯したらそのドライブを交換します。

ファントレイのカバーを 60 秒以上開けない

サーバー稼働中にファントレイのカバーを開けた場合は、60 秒以内に閉めてください。そうしないと、サーバーがオーバーヒートします。

HDD アクセスカバーを長時間開けておかない（特に HDD スロットに空きがある場合）

HDD アクセスカバーは、長時間、必要以上に開けておかないようにしてください。HDD アクセスカバーは、HDD のサービスが終わり次第、すぐに閉めてください。

これは、HDD スロットに空きがあるシステムでは特に重要です。

注意 – 空きスロットがあるときに HDD カバーが開いていると、システムが急速にオーバーヒートしてしまいます。

ファントレイの LED (CR 6469493、6456577)

ファントレイの LED には、次の意味があります。

- 緑色の LED：ファンが正常に稼動している場合は点灯しません。
- 青の LED：現在は未使用なので、点灯しません。
- 黄色の LED：ファンのいずれか 1 つまたは両方が、遅いか停止していることを示します。
- 前面パネルの上部のエラーインジケータ：ファントレイにエラーが発生した場合に点灯します。

注 - 前面パネルの上部のエラーインジケータは、HDD のサービスが必要なときにも点灯します。

LED の場所

通常は、位置特定ボタンを 5 秒間押したままの状態にすると、すべての LED が 15 秒間点灯します。ただし、この方法では LED が短時間で消えてしまう場合もあります。

注 - LED の位置特定ボタンは 2 つあります。1 つはシステムの前面、もう 1 つはシステムコントローラモジュールの背面にあります。

背面のスロットを持ってサーバーを持ち上げない

サーバーの背面には、電源や CMA ブラケットを取り付けられる 3 つのスロットがあります。これらの部分を持ってサーバーを持ち上げると、その部分が破損したり怪我をする危険があるため、避けてください。

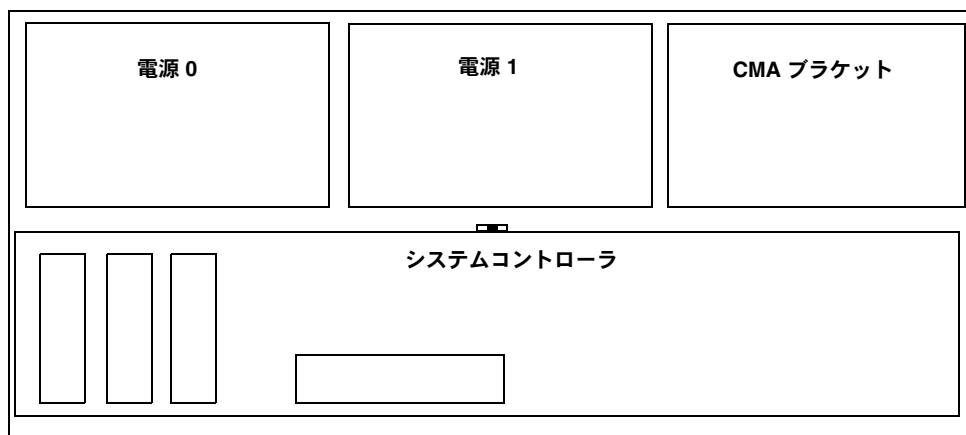


図 1 背面パネル

PCI カードのケーブルの接続・切断

スペースが限られているため、次の PCI カードは 1B ケーブルでポート 1 に接続・切断しにくくなっています。

MHET2X-2SC

MHXL-CF256-T

この問題の対処方法はありません。

ホコリによるシステム冷却効果への影響

ホコリや異物の蓄積により、システムの冷却効果に影響が出ることがあります。このため、約 6 ヶ月に一度（または、環境によってはそれより頻繁に）システム内部をチェックし、システムのヒートシンク、ファン、通気孔が汚れていないかどうかを確認してください。必要に応じてシステム内部に蓄積しているホコリや異物をブラシや掃除機で取り除いてください。

ソフトウェアの注意事項

ここでは、Sun Fire X4500 サーバーのソフトウェアに関する次の注意事項を説明します。

「ソフトウェアの一般的な注意事項」(14 ページ)

- 「ツールとドライバ、およびブート可能な診断用 CD」(14 ページ)
- 「ブート順序の変更 (CR 6497367)」(15 ページ)
- 「SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると JavaRConsole がクラッシュする (CR 6507785)」(15 ページ)
- 「SunVTS のブート可能な診断用 CD の .iso イメージ (Version 2.1f) から表示されるメッセージ」(15 ページ)
- 「RAID ボリュームのドライブの容量」(16 ページ)
- 「PowerNow! を使用している OS 用に 設定する」(16 ページ)
- 「ブート可能な診断用 CD の SunVTS 6.2 の GUI に表示される「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (CR 6465167)」(17 ページ)
- 「ハードディスクの取り付けや取り外しを行うと Marvell の警告メッセージが表示される」(17 ページ)

「Solaris の注意事項」(17 ページ)

- 「fdisk の "IFS:NTFS, OtherOS, None" に Format -M を実行すると、モードセンス ページ 0x3 でエラーが発生する (CR 6393815)」(17 ページ)
- 「iostat -E から SATA ドライブに多くのソフトエラーが発生したことが報告される (CR 6427672、6397613)」(18 ページ)
- 「ブート中に「Bad PBR Sig」というメッセージが表示される」(18 ページ)
- 「Solaris 9 SPARC クライアントでは CD-ROM や USB フロッピーディスクデバイスにリダイレクトできない (CR 6415385)」(18 ページ)
- 「Solaris OS の再インストール方法」(19 ページ)
- 「SATA の cfgadm コマンドを実行しても、SATA のすべての接続点が表示されない場合がある (CR 6386934)」(19 ページ)

- 「ノードに IOCTL をダイレクトできなかった場合は、`cfgadm_sata` を実行しても SATA の接続ノードが表示されない (CR 6397654)」 (20 ページ)
- 「Solaris Volume Manager を使用すると動作が遅くなる (CR 6419666)」 (20 ページ)
- 「ZFS データの同期化を行うとシステムの動作が遅くなる (CR 6430480)」 (20 ページ)

「Linux の注意事項」 (20 ページ)

- 「Kudzu/Anaconda ですべての SCSI デバイスが認識されない (CR 6487566)」 (20 ページ)
- 「SMART ディスクの監視デーモンで RHEL4 U4 64 ビット版を起動できない (CR 6389704)」 (21 ページ)
- 「SUSE 10.0 クライアントに USB で接続した CD-ROM は `javaRconsole` によって正しく認識されない (CR 6415456)」 (22 ページ)

「Windows の注意事項」 (23 ページ)

- 「ホスト OS 上の IPMI を使って HDD を監視・制御できない (CR 6434272)」 (23 ページ)
- 「Windows のインストール中にブートディスクが認識されないことがある (CR 6486425)」 (23 ページ)

ソフトウェアの一般的な注意事項

ここでは、どのオペレーティングシステムにも共通する注意事項を説明します。

ツールとドライバ、およびブート可能な診断用 CD

Sun Fire X4500 サーバーには、ブート可能な診断用ソフトウェアの CD が付属しています。

ソフトウェアは頻繁に更新されるため、Web サイトのダウンロードページで、Sun が認定しているソフトウェアの最新バージョンを確認してください。

初期の製品システムには、ツールとドライバ、Sun Installation Assistant、ブート可能な診断用ソフトウェアの改訂版などが同梱されていない可能性があります。その場合は、Web サイトの製品ダウンロードページから入手してください。

製品ダウンロードページにアクセスするには、次の Web サイトの「Downloads」セクションをご覧ください。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4500/support.xml>

ブート順序の変更 (CR 6497367)

システムを何回かブートすると、ブート順序が変更されたため、意図されたものでないデバイスからブートしている可能性があります。

これに対処するには、BIOS でブート順序を設定します。

1. F2 キーを押して BIOS セットアップを実行します。
2. Tab キーを押して、「Boot (ブート)」メニューの「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択します。
3. 意図されたブート元デバイスが選択されていることを確認します。選択されていない場合は、選択しなおしてください。

SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると JavaRConsole がクラッシュする (CR 6507785)

ILOM JavaRConsole リモートアプレットでは、DVD、CDROM、フロッピーディスクなどの物理メディアをリモートクライアント (特に SUSE10) にマウントすると問題が発生する場合があります。

対処方法

メディアをイメージファイルにコピーしてリダイレクトするか、Solaris 10 や Windows XP SP2 をリモートクライアントとして使います。

SunVTS のブート可能な診断用 CD の .iso イメージ (Version 2.1f) から表示されるメッセージ

仮想 CD-ROM またはその他のモデルの CD-ROM に挿入した SunVTS のブート可能な診断用 CD の .iso イメージ (Version 2.1f) からブートすると、次のようなメッセージが表示される場合があります。このメッセージは情報を伝えるだけのもので、エラーメッセージではありません。

```
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:
/pci@0,0/pci1022,7460@6/pci1022,7464@0,1/storage@1/disk@0,0 (sd0) :
Sep  7 03:49:11          Error for Command: read (10)          Error
Level: Fatal
```

```
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  Requested Block:
109118                               Error Block: 109118
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  Vendor:
AMI                               Serial Number:
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  Sense Key: Media Error
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  ASC: 0x11 (unrecovered
read error) , ASCQ: 0x0, FRU: 0x0
```

RAID ボリュームのドライブの容量

RAID ボリュームのドライブは、すべて同じ容量でなければなりません。同じ RAID ボリュームに異なる容量のドライブがあると、システムの動作が不安定になります。

PowerNow! を使用している OS 用に 設定する

Sun Fire X4500 サーバーには、AMD が開発した消費電力と放熱を削減する PowerNow! テクノロジーが搭載されています。このテクノロジーでは、カーネルの負荷が低いときに CPU の周波数と電圧を低くすることで電力の消費量を削減します。

CPU の周波数と電圧を変動させることで、クロック速度も変動します。そのため、システムリソースの使用率によっては、CPU の実際の最大速度よりも大幅に遅くなる場合があります。たとえば、2.2 GHz のプロセッサを使っているにもかかわらず、使用しているリソースが少ないときは CPU のクロック速度が 1.0 GHz まで落ちることがあります。これは省電力モードの正常な動作です。

注 – PowerNow! は、一部のオペレーティングシステムではサポートされていません。ただし、サポートされているオペレーティングシステムではデフォルトで有効になっています。次の注意事項を読み、使用している OS に合わせて使用してください。PowerNow! を使わない場合や、使用している OS でサポートされていない場合は、PowerNow! を無効にしてください。各 OS のマニュアルを参照してください。

Solaris OS の PowerNow!

Solaris OS では、PowerNow! がサポートされていません。ただし、これが有効のままになっていても、信頼性や動作に影響することはありません。

ブート可能な診断用 CD の SunVTS 6.2 の GUI に表示される「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (CR 6465167)

ブート可能な診断用 CD (Version 2.1f) に入っている SunVTS 6.2 のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) に、「Meter (メーター)」ボタンが表示されますが、機能しません。このボタンが機能するには Solaris の `stdperformeter` ユーティリティが必要ですが、ブート可能な診断にはこのユーティリティがないためです。

ハードディスクの取り付けや取り外しを行うと Marvell の警告メッセージが表示される

ハードディスクの取り付けや取り外しを行うと `/var/adm/messages` ファイルに Marvell の警告メッセージが書き込まれます。

このメッセージは情報を伝えるだけのもので、エラーメッセージではありません。

Solaris の注意事項

ここでは、Solaris オペレーティングシステムに関する注意事項を説明します。

fdisk の "IFS:NTFS, OtherOS, None" に Format -M を実行すると、モードセンスページ 0x3 でエラーが発生する (CR 6393815)

ディスクのパーティションに Solaris OS 以外のシステムがインストールされている場合に `format (1M)` を実行すると、`fdisk` サブコマンドから次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Current Disk Type is not set (現在のディスクタイプは設定されていません)
```

対処方法

スタンドアロンの fdisk (1M) ユーティリティを使って Solaris パーティションを作成し、format (1M) でディスクスライスを構成します。

iostat -E から SATA ドライブに多くのソフトウェアが発生したことが報告される (CR 6427672、6397613)

このようなメッセージは無視してかまいません。

仮想 CD-ROM でも同様のメッセージが報告される場合がありますが、これらも無視してください。

ブート中に「Bad PBR Sig」というメッセージが表示される

ブート中に「Bad PBR sig」というメッセージが表示された場合は、ブート可能でないデバイスからブートしようとしていることを示しています。

ブート可能なドライブからブートしてください。詳しくは、『Sun Fire X4500 Server Guide for Preinstalled Solaris 10 Operating System (Solaris 10 OS プリインストール済みの Sun Fire X4500 サーバーガイド)』を参照してください。

Solaris 9 SPARC クライアントでは CD-ROM や USB フロッピーディスクデバイスにリダイレクトできない (CR 6415385)

Solaris 9 SPARC クライアントでは、CD-ROM や USB フロッピーディスクデバイスにリダイレクトできません。これは、javaRConsole がないため、プラットフォームにライブラリが必要になるためです。その他のリダイレクト機能は正常に動作します (たとえば、キーボード、ビデオ、マウスのリダイレクトなど)。

対処方法

Solaris 10 クライアントを使用してください。

Solaris OS の再インストール方法

SunFire x4500 サーバーには、Solaris 10 11/06 があらかじめインストールされています。これをインストールし直すには、サンの Download Center からダウンロードしてください。

<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>

工場出荷時のインストール構成に戻すには、次の手順に従ってください。

1. S10 U3 をインストールします。
2. 次の場所にある Solaris 用の HD ユーティリティをインストールします。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4500/support.xml>

3. 2 つのブート可能なディスクをミラー化します。

これに必要なパッチは現在準備中で、次の Web サイトから入手できるようになります。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4500/support.xml>

SATA の `cfgadm` コマンドを実行しても、SATA のすべての接続点が表示されない場合がある (CR 6386934)

SATA の `cfgadm` コマンドを実行しても、切断されている HBA がある場合は、SATA のすべての接続ノードが表示されません。これはブート後に未使用のドライバがアンロードされるために発生します。

HBA のドライバがアンロードされると、特定のコントローラで SATA の接続点ノードを管理するエンティティがなくなります。このため、`cfgadm` の画面に SATA の接続点が表示されず、電源を入れたまま SATA のデバイスを接続 (ホットプラグ) してもユーザーやシステムに認識されません。その結果、デバイスを誤って操作してしまうことにもなりかねません。

対処方法

'`devfsadm -c`' を実行して SATA ドライバをロードし、SATA のすべてのコントローラを強制的に初期化します。その後 `cfgadm` を実行すると、SATA のすべての接続点が表示されます。

ノードに IOCTL をダイレクトできなかつた場合は、`cfgadm_sata` を実行しても SATA の接続ノードが表示されない (CR 6397654)

`cfgadm` を実行しても、一部の SATA の接続点が一覧に表示されないことがあります。この問題は一時的なもので、その後の `cfgadm` の呼び出しにより表示されます。

Solaris Volume Manager を使用すると動作が遅くなる (CR 6419666)

ブート可能な 2 つのディスクに構成されている Solaris Volume Manager (SVM) のボリュームでは、動作が遅くなることがあります。

ZFS データの同期化を行うとシステムの動作が遅くなる (CR 6430480)

ZFS データの同期化を行うと、システムの動作が遅くなります。

Linux の注意事項

ここでは、Linux オペレーティングシステムに関する注意事項を説明します。

Kudzu/Anaconda ですべての SCSI デバイスが認識されない (CR 6487566)

システムに多数のディスクが取り付けられていると、Kudzu のインストール中に仮想 CD-ROM やフロッピーディスク、USB で接続した外付けの CD-ROM が認識されません。これは、Kudzu の不具合です。

Kudzu の不具合については、次の Web サイトをご覧ください。
https://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=206641

対処方法

次のいずれかの手順を実行します。

- Marvell SATA ドライバが含まれている修正済み initrd イメージを使ってネットワークベースのインストールを行います。
- SIA のインストール CD を使ってインストールを行います。
- 取り付けられているディスクが少ないシステムにインストールを行います。

SMART ディスクの監視デーモンで RHEL4 U4 64 ビット版を起動できない (CR 6389704)

RHEL4 U4 ディストリビューションに含まれている SMARTMONTTOOLS パッケージ (Version 5.33) では、Marvell SATA コントローラがサポートされていないため、エラーが発生します。

対処方法

Version 5.36 の SMARTMONTTOOLS パッケージでは Marvell SATA コントローラがサポートされています。この問題を解決するには、パッケージを 5.36 以降のバージョンにアップグレードしてください。

1. rpm パッケージ、`smartmontools-5.36-1.x86_64.rpm` は、<http://smartmontools.sourceforge.net/> からダウンロードできます。
2. 次の手順で SMARTMONTTOOLS パッケージをインストールします。
 - a. 次のコマンドを実行して、以前のパッケージを削除します。

```
#rpm -ivh --force smartmontools-5.36-1.x86_64.rpm
```

新しい構成ファイル `/etc/smartd.conf.rpmnew` が作成されます。
 - b. `/etc/smartd.conf` の以前の反復ファイルを新しいファイルに置き換えます。たとえば、次のコマンドを使用します。

```
cp /etc/smartd.conf /etc/smartd.conf.OLD
cp /etc/smartd.conf.rpmnew to /etc/smartd.conf
```
 - c. `/etc/smartd.conf` ファイルを編集します。
 - i. "DEVICSCAN" の行に付いているコメント記号を削除します。
 - ii. `"/dev/sd[a..z] -device marvell"` を各デバイスに渡すように `/etc/smartd.conf` ファイルを構成します。たとえば、次のような行を追加します。

```
/dev/sda -H -m root -d marvell
/dev/sdb -H -m root -d marvell
...
/dev/sdav -H -m root -d marvell
```

a. /etc/smartd.conf ファイルを保存して閉じます。

注 - /etc/smartd.conf ファイルに指定したエントリに該当するデバイスがないと、smartd を実行してもエラーが発生します。

SUSE 10.0 クライアントに USB で接続した CD-ROM は javaRconsole によって正しく認識されない (CR 6415456)

javaRconsole を開き、CD-ROM ドライブをクライアントのコンピュータに USB で接続して CD-ROM のリダイレクトを開始すると、次の 2 つのオプションが表示されます。

- /dev/hda (システムの CD-ROM デバイス)
- /dev/scd0 (USB)

このうち、/dev/scd0 を選択するとエラーメッセージが表示されます。

クライアントのシステムで dmesg コマンドを実行すると、USB 接続の CD-ROM が /dev/sr0 と表示されます。

CD-ROM を使うには、次のいずれかを行います。

- 次のコマンドを実行してシンボリックリンクを作成します。

```
ln -s /dev/sr0 /dev/scd0
```

- 次のエントリを /etc/fstab に追加します。

```
/dev/sr0 /dev/scd0 usbfs noauto 0 0
```

Windows の注意事項

ここでは、Windows オペレーティングシステムに関する注意事項を説明します。

ホスト OS 上の IPMI を使って HDD を監視・制御できない (CR 6434272)

ハードドライブは、サービスプロセッサや IPMI では監視・制御できません。

ハードドライブの取り外し可能な状態を示す LED やエラーを示す LED も信頼できません。

Windows のインストール中にブートディスクが認識されないことがある (CR 6486425)

大容量記憶装置として、フロッピーディスクドライブをサーバーへ物理的に USB で接続する場合は、背面上側の USB ポートに接続しないと A ドライブとして認識されません。

Solaris OS がインストールされている場合は、Windows のインストーラによりディスクドライブが正しく表示されないこともあります。ブートドライブを正しく選択するには、ドライブの選択ダイアログで Enter キーを押します。

- 上向き矢印キーや下向き矢印キーを押してドライブのリストをスクロールしても、ブートドライブは表示されません。
- 方向キーを押してしまうと、正しいブートドライブを選択できなくなるので Windows のインストールをもう一度最初からやり直してください。

構成は、48 ディスクシステムしかサポートされていません。システムに 48 個のドライブがあると、Windows でのドライブ番号は物理的なドライブ番号と異なります。たとえば、Windows のブートドライブの番号は 24 ですが、該当する物理ドライブの番号は 0 です。

Windows オペレーティングシステムのインストール方法については、『Sun Fire X4500 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-1159) を参照してください。

BIOS の注意事項

ここでは、BIOS に関する次の注意事項を説明します。

- 「BIOS の POST の実行中に最適なデフォルト設定をロードする」(25 ページ)
-

BIOS の POST の実行中に最適なデフォルト設定をロードする

BIOS の POST (Power-On Self Test: 電源投入時の自己診断テスト) の実行中に、次の手順を行います。

1. **F2** キーを押してセットアップを起動します。
メッセージ画面の後に、BIOS の設定ユーティリティ画面が表示されます。
2. **F9** キーを押すか、矢印キーを使って「Exit (終了)」メニューの「**Load Optimal Defaults (最適なデフォルトをロード)**」を選択します。
「Load Optimal Defaults [OK] (最適なデフォルトをロード [OK])」というダイアログボックスが表示されます。
3. **Enter** キーを押します。
ダイアログボックスが閉じます。
4. **F10** キーを押すか、矢印キーを使って「Exit (終了)」メニューの「**Save Changes and Exit (変更を保存して終了)**」を選択します。
変更を保存して終了することを確認するダイアログボックスが表示されます。
5. **Enter** キーを押して変更を保存し、BIOS ユーティリティを終了します。

サービスプロセッサの注意事項

ここでは、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) のサービスプロセッサに関する次の注意事項を説明します。

- 「新しいイメージをフラッシュすると WebGUI にログオンできなくなる (CR 6513809)」 (28 ページ)
- 「ECC のエラーメッセージが SEL に記録されないことがある」 (28 ページ)
- 「SP の IP アドレスを WebGUI から変更すると WebGUI が応答しなくなることがある (CR 6496327)」 (29 ページ)
- 「ILOM から電圧のわずかな変動が報告される (CR 6506412)」 (29 ページ)
- 「SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると JavaRConsole がクラッシュする (CR 6507785)」 (30 ページ)
- 「サマルシャットダウン後にシステムをブートするとブート中にシャットダウンする (CR 6494327)」 (30 ページ)
- 「構成から解除したディスクが引き続き SP または IPMItool に表示される (CR 6512915)」 (30 ページ)
- 「ILOM のフラッシュアップデートの新しいレイアウト」 (31 ページ)
- 「SP では 115200 ボーがサポートされていない (CR 6499189)」 (31 ページ)
- 「サマルシャットダウンが発生しても CPU のエラーイベントが SP のシステムイベントログ (SEL) に記録されない (CR 6499953)」 (32 ページ)
- 「SP で SNMP トラップを使用できない (CR 6396525)」 (32 ページ)
- 「ゲートウェイのネットワーク IP アドレスが間違っているとリダイレクトができない (CR 6494290)」 (32 ページ)
- 「CLI と WebGUI に TOP_SVC、REAR_SVC、/SYS/FT4 のエントリがない (CR 6502713)」 (33 ページ)
- 「シャーシコントロールのサブコマンド 0x4 (パルス診断の中断) がサポートされていない (CR 6404875)」 (33 ページ)
- 「リモートコンソールセッションを起動すると Java コンソールにエラーメッセージが表示される (CR 6441908)」 (33 ページ)
- 「help targets コマンドを実行しても /sys の下のすべてのオブジェクトが表示されない」 (34 ページ)

新しいイメージをフラッシュすると WebGUI にログオンできなくなる (CR 6513809)

新しいイメージをフラッシュすると、WebGUI にログオンできなくなることがあります。

対処方法

ブラウザのキャッシュと Cookies を消去します。

ECC のエラーメッセージが SEL に記録 されないことがある

サービスプロセッサは BIOS から ECC のエラーメッセージ（修正可能・不可の両方）を受け取り、それらを IPMI SEL（システムイベントログ）に記録します。ところが、まれにこれが記録されないことがあります。

修正可能なエラーはサーバーの動作には影響しませんが、修正不可能なエラーが発生すると常にサーバーがリセットされます。

対処方法

ECC のエラーメッセージ（修正可能・不可の両方）がすべて記録されている BIOS DMI のイベントログにアクセスします。

SP の IP アドレスを WebGUI から変更すると WebGUI が応答しなくなることがある (CR 6496327)

WebGUI を使って SP の IP アドレスを変更すると、WebGUI が応答しなくなることがあります。

対処方法

次のいずれかを行ってください。

- CLI を使って SP の IP アドレスを変更する。
- WebGUI を使って SP の IP アドレスを変更したあとは、ブラウザのキャッシュと Cookies を消去する。

ILOM から電圧のわずかな変動が報告される (CR 6506412)

通常の操作中に、ILOM で監視している電圧のわずかな変動が報告されることがあります。このような報告は通常は無視してかまいませんが、変動値が重大なエラー状態を示すしきい値を超えると、警告が生成されます。電圧変動のしきい値については、使用しているプラットフォームの補足ドキュメントに記載されています。

また、サーバーの電源を入れたり切ったりすると、電圧変動の警告が間違って報告されることがあります。これも、重大なエラー状態を示すしきい値を超えていなければ無視してかまいません。

SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると JavaRConsole がクラッシュする (CR 6507785)

詳細は、「[SUSE10 プラットフォームでマウントした CD から S10u3 をインストールすると JavaRConsole がクラッシュする \(CR 6507785\)](#)」(15 ページ)を参照してください。

サーマルシャットダウン後にシステムをブートするとブート中にシャットダウンする (CR 6494327)

オーバーヒートによるサーマルシャットダウン後にシステムをブートすると、ブート中にシャットダウンすることがあります。

コンポーネントがオーバーヒートしたときは、冷却時間がかかります。オーバーヒートの原因を取り除いたあともシステムを正しくブートできない場合は、30 分ほど待つてから再起動してください。

構成から解除したディスクが引き続き SP または IPMItool に表示される (CR 6512915)

ディスクを構成から解除し、物理的に取り外しても、引き続き IPMItool に表示されます。

次の例では、`cfgadm unconfigure` コマンドを使ってディスクを構成から解除します。

```
cfgadm -c unconfigure sata4/6
```

その後、IPMItool を使うと、次のようになります。

```
#ipmitool ..sunoem led get
hdd31.ok2rm.led | ON
hdd32.fail.led | OFF
```

ILOM のフラッシュアップデートの新しいレイアウト

フラッシュのダウングレード時に、手順を繰り返す行わなければならないことがあります。その場合は、メッセージが表示されます。指示されたとおりに手順を繰り返せば正しくダウングレードでき、エラーがあるわけではありません。

同様に、GUI、CLI、N1 System Manager を使ってフラッシュをダウングレードするときに、一度で正しくダウングレードしなかった場合は、もう一度手順を行えば正しく完了します。

新しい ILOM フラッシュプロセスにより、ホストの電源が切られることはありません（新しい BIOS が必要な場合を除く）。すべてのコンポーネント（BIOS も含む）を強制アップデートし、ホストの電源を切るには、CLI の load コマンドを実行し、-f オプションを指定します。

たとえば、Software Release 1.1.1 のレイアウトにすべてのコンポーネントを強制アップデートするには、次のコマンドを実行します。

```
load -f tftp://tftpserver/ILOM.X4500-1.1.1.ima
```

SP では 115200 ボーがサポートされていない (CR 6499189)

最新の SP では、ボーレートの選択ができるようになりました。ただし、115200 ボーはサポートされていないため、ボーレートを 115200 に設定しないでください。

サーマルシャットダウンが発生しても CPU のエラーイベントが SP のシステム イベントログ (SEL) に記録されない (CR 6499953)

オーバーヒートによるサーマルシャットダウンが発生しても、SP により CPU のエラーイベントが IPMI SEL に記録されません。

どの CPU がオーバーヒートしたかを特定するには、IPMI SEL で、回復不可能な上限に温度が達したイベントを調べてください。

SP で SNMP トラップを使用できない (CR 6396525)

サービスプロセッサは、SUN-PLATFORM-MIB の SNMP トラップをサポートしていません。

この問題に対処するには、SNMP トラップの一種である IPMI PET トラップを使用します。IPMI PET トラップを実装するには、サービスプロセッサで警告ルールを設定するか、直接 IPMI でプラットフォームイベントフィルタ (PEF) ルールを設定します。

ゲートウェイのネットワーク IP アドレスが間違っているとリダイレクトができない (CR 6494290)

有効なゲートウェイの IP アドレスを指定するか、0.0.0.0 (ゲートウェイが不要な場合) を設定しないと、リダイレクトができなくなります。

ゲートウェイの IP アドレスを設定するには、WebGUI のネットワーク設定画面か、CLI SP/ ネットワークオブジェクトを使用します。

CLI と WebGUI に TOP_SVC、 REAR_SVC、 /SYS/FT4 のエントリがない (CR 6502713)

これらのオブジェクトを監視するには、IMPI ユーティリティの `ipmitool sdr` コマンドを実行します。

シャーシコントロールのサブコマンド 0x4 (パルス診断の中断) がサポートされ ていない (CR 6404875)

この機能はサポートされていません。

リモートコンソールセッションを起動す ると Java コンソールにエラーメッセ ージが表示される (CR 6441908)

リモートコンソールセッションを起動すると、Java™ コンソールが開始しますが、「Checking for the Latest Version (最新バージョンを確認しています)」というメッセージが表示され、その後は先に進めません。

対処方法

最新バージョンの Java と Java Webstart がインストールされていることを確認してください。バージョン 1.0.5 以降が必要です。

また、SP が 100M バイトのポートか、100M バイトの速度で接続可能なスイッチに接続されていることを確認してください。

help targets コマンドを実行しても
/sys の下のすべてのオブジェクトが表
示されない

help targets コマンドを実行しても、/sys.. の下にあるすべての有効なターゲット
は表示されません。

ドキュメントの注意事項

ここでは、ドキュメントに関する次の注意事項を説明します。

- 「Sun Fire X4500 Server Guide for Preinstalled Solaris 10 Operating System (Solaris 10 OS プリインストール済みの Sun Fire X4500 サーバーガイド)」 (35 ページ)
- 「Sun Fire X4500 Server Diagnostics Guide (Sun Fire X4500 サーバー診断マニュアル)」 (36 ページ)
- 「Sun Fire X4500 Server Service Manual (Sun Fire X4500 サーバーサービスマニュアル)」 (36 ページ)

Sun Fire X4500 Server Guide for Preinstalled Solaris 10 Operating System (Solaris 10 OS プリインストール済みの Sun Fire X4500 サーバーガイド)

このドキュメントの 12 ページに、次のような文が記載されています。

「The Solaris OS is preinstalled on the hard disk in physical slot 0 and is mirrored on the hard disk in physical slot 1. Hard disks in physical slot 2 through 26 are configured as a single ZFS volume.」

ここで、「2 through 26」とありますが、正しくは「2 through 47」の誤りです。

Sun Fire X4500 Server Diagnostics Guide (Sun Fire X4500 サーバー診断マニュアル)

ツールとドライバの CD が付属していない

『Sun Fire X4500 Server Diagnostics Guide (Sun Fire X4500 診断マニュアル)』には、Sun Fire X4500 サーバーにツールとドライバが入った CD が付属していると記載されています。

初期の製品システムには、ツールとドライバ、Sun Installation Assistant、ブート可能な診断用ソフトウェアの改訂版などが同梱されていない可能性があります。その場合は、Web サイトの製品ダウンロードページから入手してください。

製品ダウンロードページにアクセスするには、次の Web サイトの「Downloads」セクションをご覧ください。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4500/support.xml>

Sun Fire X4500 Server Service Manual (Sun Fire X4500 サーバーサービスマ ニュアル)

250G バイト および 750G バイトのディスクドライ ブがサポートされていない

現時点では 500G バイトのハードドライブしかサポートされておらず、250G バイトおよび 750G バイトのドライブはサポートされていません。